

## 対象者別のコーディネート

ボランティア活動のいろいろ

物資の仕分け



物資の運搬



炊き出し



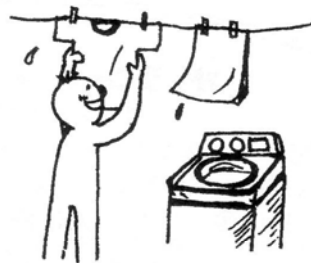
清掃



買い物



洗濯



引越手伝い



片付け



話し相手/  
心のケア



つきそい



勉強などのサポート



遊び相手



高齢者のケア



身体障害者への支援



視覚障害者への支援



聴覚障害者への支援



外国人支援



入浴介助



配食サービス



移送サービス



理・美容サービス



医療活動



安否確認



情報提供





## 高齢者支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 避難・移動の介助

自力で動けない、寝たきり、すばやく避難することのできない高齢者などに対するサポート。近隣の方々と協力し、安全な場所への誘導を行う。特に、認知症の高齢者など、パニックを起こしやすい方の誘導には注意が必要。言葉で理解されない場合は、手を引いて安全な行動ができるよう誘導する。

#### つきそい・話し相手・心のケア

高齢者は環境の変化にとっても敏感。身体的、精神的な負担を軽減するための、必要に応じたサポート。

#### 情報提供

高齢者に対し、警報や避難の連絡・援助物品の提供場所など必要な情報を提供する。特に、耳の遠い方や情報の届きにくい一人暮らしの高齢者には注意して提供していくことが必要。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

車イスの取り扱いができるかどうか。  
高齢者と接したことがあるか。  
継続的に活動できるか？  
→安心感を持てるよう、できるだけ顔と名前のわかる関係を。

#### ボランティアに伝えるポイント

高齢者は、環境の変化に応じることが特に難しい。それがストレスとなって身体的な症状として現れることもある。  
身体的な変化・症状に関しては、決して勝手な判断や治療を行わない。  
必ず、医療関係等の専門家に連絡する。  
耳の遠い高齢者には、なるべくメモを書いて情報を伝える。  
聞こえないままでうなずいてしまう場合が多い。普通に声かけしても反応がない時は耳が遠いと判断できる。  
認知症の高齢者に対しては、見守りの姿勢で接する。言動や行動の否定をしない。（危険な行動を除いて）  
継続的な保健福祉サービスが必要だと感じたら、コーディネーターに相談する。（コーディネーターから必要に応じて関係機関へ連絡する。）

## 肢体障害者支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 移動介助・つきそい

車イスや杖などを使っての移動には、災害後、非常に困難を伴う。  
周囲の人と協力し、安全に移動できるようにする。

#### 食事介助

1人で食事のできない障害者に対するお手伝い。障害にあわせて、できない部分をサポートする。

#### トイレ介助

1人でトイレに行かれない障害者に対するお手伝い。障害にあわせて、できない部分をサポートする。同性介助を原則として行う。

#### その他介助

着替えや、洗面など、必要に応じた生活介助。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

車イスの取り扱いをしたことがあるか。  
身体障害のある方と接したことはあるか。  
トイレ介助等はできるか。

#### ボランティアに伝えるポイント

トイレ介助や着替え介助は同性介助を原則とする。  
声をかけることのできない障害者もいるので、注意して観察し、自分から積極的に声をかけるようにする。(トイレなどの場合は、大きな声で聞かないよう注意)  
車イスを階段等で移動する際には、必ず周りの協力を得て安全に行う。動かすときは必ず声かけをする。  
車イスの方と話すときはできるだけ目の高さをあわせてかがみ込んで話す。  
脳性マヒ・失語症・喉頭障害のある方の言葉が聞き取りにくい場合があります。そんな時は、何回でも、わかるまで聞きなおしましょう。「わかったフリ」はご本人たちにとって一番辛く、かつ危険な状況を作り出すことです。

## 精神障害者支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 移 動

環境の変化によってパニックを起こしがちな方に、安心感を持って安全な場所へ移動ができるように支援する。

#### つきそい・心のケア

災害のショックなどで不安定な状態になりやすいので、置かれた状況に適切な対応ができるよう、相手を受けとめる姿勢でつきそい、安心感を与える。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

精神障害のある方と接したことがあるか。  
精神障害について、どの程度の知識があるか。

#### ボランティアに伝えるポイント

症状に対し、医師以外のものが勝手な判断をしない。  
苦しみを分かち合う姿勢で、安心感を与えるふれあいを。  
急がせたり、焦らせる言動は慎む。

## 知的障害者支援ボランティアのコーディネート

### ■知的障害者支援ボランティアの主な活動

#### 移 動

状況把握が難しい知的な障害をお持ちの方の、安全な移動をサポートする。

#### つきそい

状況に応じた行動ができにくいので、よくコミュニケーションをとり、自己決定による行動をサポートする。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

知的障害のある方と接したことがあるか。

#### ボランティアに伝えるポイント

抽象的な事柄を理解することが苦手な方が多いが、積極的にコミュニケーションをとれば、理解し合える。

本人の自主性を尊重し、気持ちや考え方の整理ができるようサポートする。

## 視覚障害者支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 目として

避難所内及び付近の地理の説明。避難所内の掲示物を読みあげる。

#### 手として

役所の手続きの書きこみ、片付けなどの手伝い。点訳ができる人がいれば、必要なことのメモや、電話番号を打ってもらう。弱視の方には大きめの字でメモを書く。

#### つきそい

病院や役所、また避難当初には、配給場所やトイレなど、必要な場所への案内と確認の手伝い。

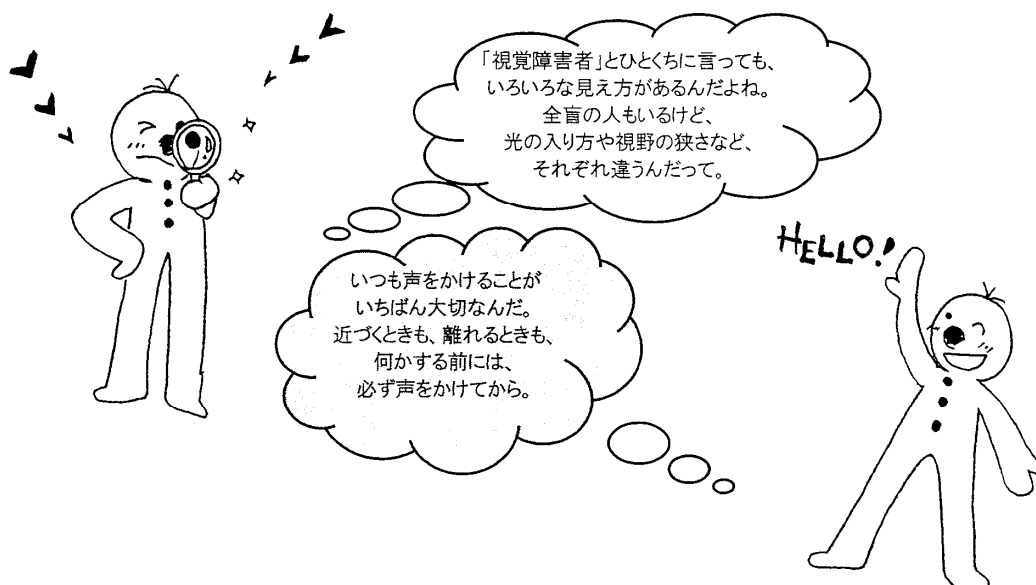
### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

点訳の知識があるか。(少しでも知識があると役に立つことが多い。)  
誘導などの経験があるか。  
重複障害の場合対応可能か。

#### ボランティアに伝えるポイント

必ず声を掛け、説明してから行動する。いきなり手を引いたり体に触らない。  
視覚がないと不安のため、同性が望ましい。  
避難所では特別扱いよりも、周りの人に理解を得て、協力してもらう方向で。





## 聴覚障害者支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 情報提供

避難、移動に関しては身体的介助は必要ないが、情報提供が必要。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

聴覚障害者とコミュニケーションをとった経験があるか。  
手話ができるか。

#### ボランティアに伝えること

情報が入らないことによる不安感が強いので、できるだけ情報を伝える。

#### 参 考 . . . コミュニケーションの方法

##### 手話・指文字

全ての聴覚障害者が手話を使うわけではない。  
地域により手話が異なる。

##### 筆 談

中途失聴者・難聴者の場合は普通に書けばよいが、  
文字取得以前に失聴した場合文章を短く簡単にする。  
ひらがなばかりでなく簡単な漢字を入れる。

##### 空 書

自分のほうから見た字を書く。

##### 口 話

口をはっきり大きく開ける。ゆっくり話す。

\*補聴器を使っている場合、相手が聞き取れなかった時は、大きな声を出すのではなく、言い方を変える。



「手話」ができなくても、  
大きく口をあけて話すとか、  
紙に書いて伝えるとか、  
いろいろな方法で  
コミュニケーションを  
取ることができるんだね。

## 内部障害者支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 移動

運動能力の低下している内部障害者は、重い荷物を持つ、速く歩く、坂道や階段を上などの急激な肉体的負担を伴う行為は制限されている。そのことに注意して安全な場所へ避難できるようにする。

#### 見守り／環境整備

身体的には、自己管理はもちろん、周囲の理解や配慮によって、普通の人と同じように過ごせるので、環境を整えてあげることが必要。

疲れやすく、体調を崩しやすいところがあるので、無理をさせないように見守る。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

内部障害について少しでも知っているか？

#### ボランティアに伝えるポイント

内部障害には5つの種類があり、その種類によって注意すべき点が異なる。  
(下記参照)

災害時は特殊な環境にあるため、医療機関への連絡はすぐに取りれる用意をしておく。

症状に対し、医師以外のものが勝手な判断をしない。

### ■参 考

内部障害とは、それぞれの内部疾患による後遺障害のことをいいます。全般の特徴として、運動能力の低下（急激な身体的負担の制限）・体調を崩しやすいことがあげられます。

#### <代表的な内部障害>

- ①呼吸機能障害…肺呼吸が不十分。酸素と炭酸ガスの交換が妨げられる。  
酸素の確保要。(気体酸素・濃縮酸素・液体酸素など)
- ②心臓機能障害…血液循環機能の低下。
- ③じん臓機能障害…老廃物の排泄ができなくなる。(週2～3回の人工透析・食事制限要)  
人工透析のできる施設をリストアップしておくといよい。
- ④膀胱・直腸の機能障害…膀胱、直腸機能低下・喪失。排泄口(ストマ)造設者もあり、  
予備のストマと、その清拭用具が必要。
- ⑤小腸機能障害…消化・吸収機能の低下・喪失。通常の栄養維持困難。(例、栄養治療法)
- ⑥ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫機能障害…重篤な免疫不全症を引き起こす。  
日常生活では感染しません。応急手当には使い捨てのビニール又はゴムの手袋、マスクを使用。

## 外国人支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 通 訳

区役所などで手続きをしたり、病院へ行ったり、家の修理を頼んだりするときにことばが通じないときに通訳する。

#### 翻 訳

外国語でのニュースや、避難所などでの掲示物の翻訳をする。

#### つきそい

通訳をするほどではないが、日本語が読めなかったり、地理に不案内な外国人に付き添う。

外国人の日本語力によっては、外国語ができなくても活動可能。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアに聞くポイント

通訳か、翻訳か。これまでの通訳・翻訳の経験等。

外国語の力（かなりできる、日常会話程度、少しだけ、など）

自宅でFAXあるいはパソコン通信でやりとりが可能か。（翻訳の場合）

行政関係の手続きや医療関係の通訳に慣れているか。

中国語の場合は言語名を聞く。例：北京語、上海語、広東語、福建語など

#### ボランティアに伝えるポイント

ボランティア希望者は英語ができる人が多いが、希望者の割にニーズが少ないのが現状。その他の言語もニーズが多いわけではないので、あまり期待を持たせるようなことは言わないように。言葉のボランティアと共に、その他の活動にも従事してもらえるか確認。

通信手段もあまりない場合、日本語ができない外国人が精神的に孤立することもある。単なる話し相手になれる人も必要。特にネイティブのボランティア希望者が喜ばれる。

### ■参 考

言語的に横浜で特に必要とされるのは中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語。その他、タガログ語、タイ語、英語、韓国・朝鮮語も多少必要。宗教上の理由や文化の違いからボランティアの性別が限定される場合がある。食事などを含めた異文化への理解があるとなおよい。

## 乳幼児・子ども支援ボランティアのコーディネート

### ■ボランティアの主な活動

#### 保 護

乳幼児の保護へのサポートをする。危険からの回避。

#### 遊び相手

子どもたちと遊んだり、子どもたちの話の聞き手になったりする。

#### 学習サポート

避難所などにおいて、学習環境のままならない子どもたちに対し、勉強を教える等のサポートを行なう。

### ■コーディネートの注意

#### ボランティアから聞くポイント

乳幼児の保育の経験があるか。

素話（昔話など）や手遊び歌ができるか。

レクリエーションリーダーや子供会の世話役などの経験があるか。

#### ボランティアに伝えるポイント

身体的な変化（特に乳幼児の場合）は勝手な判断をしないで、医療関係者等、専門家に連絡する。

年齢差や個人差を考慮してサポートする。

素話をする時は、いたずらに恐怖心をあおるような話ではなく、人生に対して肯定的な内容のものが望ましい。わらべ歌などは乳幼児も楽しめる。

おとなから見れば不謹慎と思われる遊び（たとえば「地震ごっこ」など）でも無理にやめさせず見守る。



震災等のショックは、  
子どもたちの心にも、  
想像以上の影響を与えます。  
不安感を与えないよう、  
ケアすることが必要です。

専門ボランティアの連絡先

分 類		内 容	Tel/Fax
医 療	医 師	被災状況に応じた、より実地的な活動体制を立ち上げるため、ボランティアの受付・登録を発災後に実施予定。	健康福祉局保健事業課 671-2464/663-4469
	看 護 職	災害時に医師等と応急医療を行なうため、看護職の事前登録を行なっている。	県看護協会 263-2901/263-2905 健康福祉局医療政策課 671-2465/664-3851
福 祉 関 係		福祉関係のボランティアは、災害時に限らず、高齢化社会において多様なニーズを抱えている。 ボランティア登録は、市社会福祉協議会、区社会福祉協議会等で受け付けている。	横浜市ボランティアセンター 201-8620/201-1620 健康福祉局福祉保健課 671-4044/664-3622
外国語の通訳・翻訳		横浜市と(財)横浜市国際交流協会が震災時の連携協定を締結。外国語の通訳・翻訳関係の活動は、平常時から行なわれており、(財)横浜市国際交流協会や国際交流ラウンジ等でボランティア派遣を行なっている。これらの活動を軸に、災害時も連携・協力を図る。	(財)横浜市国際交流協会 222-1171/222-1187 都市経営局国際政策室 671-3826/664-7145
アマチュア無線技士		横浜市アマチュア無線非常通信協力会と災害時の協力に関する協定を締結。 (社)日本アマチュア無線連盟神奈川県支部との協力による。(活動拠点は県サポートセンター)	安全管理局 危機管理室情報技術課 671-3453/641-1677
応急危険度判定士		被災建築物の使用可否を判定する専門家。神奈川県内の応急危険度判定士登録者数は、平成19年3月31日現在で、11,037名。災害時の連携・協力を図る。	まちづくり調整局 建築企画課 671-2928/641-2756

応急危険度判定士とは・・・

都道府県知事により登録された建築技術者。ヘルメットシールや腕章などで明示され、身分証明として「判定士登録証」を常時携帯している。

被災した建築物が余震等により、倒壊または、落下物を発生させ、人命に危険を及ぼす恐れがあるため、被災後すぐに建築物の調査を行い、使用の可否を判定する。

神奈川県では、県と県内全市町村とで「神奈川県建築物震後対策推進協議会」を設置しており、「応急危険度判定基準」の整備を進めている。

《参考》応急危険度判定士養成講習会の問合せは・・・⇒ (財)神奈川県建築安全協会

☎ 212-4511 / ☎ 212-3553